

利尻小学校 第3・4学年 国語科 学習指導案

① 日時 場所 児童数 指導者

日時	令和5年9月22日（金）	5校時
場所	小3・4年教室	
児童（生徒）	第3学年：5名	第4学年：7名
指導者	教諭 伊藤 太博	
	伊藤 慎也（特別支援知的）	
	斎藤 亜伊（特別支援言語）	

【第3学年】

1 単元名（教材名）

七 場面のうつりかわりに気をつけて読もう『わすれられないおくりもの』（教育出版『ひろがる言葉3上』）

2 教材について

本単元で扱う「読むこと」については、学習指導要領には以下のように位置づけられている。

第3・4学年 C 読むこと

- (1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。
イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。
ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。
エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。
オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。
カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。
- (2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。
- ア 記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えしたことなどを説明したり、意見を述べたりする活動。
イ 詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えしたことなどを伝えあったりする活動。
ウ 学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。

本単元では、読むことの中でも「イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること」や「エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること」を行っていく。そのため、文章の表現のしかたや指示語などに着目しながら学習を進めていく。

3 児童の実態

(1) NRTの結果から

3年生の児童は、4月に行ったNRTの結果で、「読むこと」について課題があることが示されている。特に説明文・物語等の読み取りを苦手としている児童が多く、文章全体の内容をとらえること、場面や段落について自分の言葉で説明することを伸ばしていく必要がある。また5名の中でも学力差があり気持ちを想像することを苦手にする児童もいるため、本文中の行動に着目させサイドラインを引くことで、登場人物の行動を根拠に気持ちを考えることができるようとする。また交流場面では全員がわかる言葉でまとめることで、読み取りが得意な児童だけではなく、全員が納得できる答えを探求させていきたい。

(2) 本单元との関わり

これまでの学習から物語の読み取り自体は好きな児童が多い。しかし、登場人物の気持ちを深く読んだり、本文の表現について読み込んだりできていない児童も多い。また指示語の指す言葉などをうまく捉えられない児童もいる。そのため、サイドラインを引かせて本文の表現を意識して読ませ、適宜本文の表現についても解説をしながら指導していきたい。

4 単元の目標と評価規準

① 単元の目標

場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて叙述をもとに捉える。(読む)

② 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。 (知識及び技能) (1) カ	○「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 (思考力・判断力・表現力等 C エ) ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 (思考力・判断力・表現力等 B ウ)	○進んで登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって、登場人物の言葉を考えようとしている。

5 研究とかかわり

本時の核となるアウトプット活動

- ①気持ちを考える際の根拠となる本文の部分を見つける。
- ②全員がわかる言葉でまとめる能够るように話し合わせる。

アウトプット活動の目的

- ①根拠を明らかにして話し合わせることで、課題解決に対する理解を深める。
- ②誰かの意見を真似することで満足するのではなく、全員が理解できる意見にすること。

6 単元の指導計画

時数	○目標	○学習活動	知 技	思 判 表	主 体 態
1	○物語を読み、初発の感想を書くことができる。	○単元とびらから学習の見通しをもつ。 ○範読を聞いた後、初発の感想を書き発表する。 ○場面わけをする。 ○自分で音読をする。		○	○
2 3	○森の動物たちのあなぐまとの思い出について整理し、理解することができる。	○森の動物たちのあなぐまとの思い出について読み取り、ノートにまとめる。 ○まとめたことについて交流し、森の動物たちのあなぐまとの思い出について確認する。	○		
4	○あなぐまの人柄や気持ちについて読み取ることができる。	○あなぐまの人柄や気持ちについて読み取る。	○	○	
5 本時	○あなぐまがいなくなった直後と、「ありがとう、あなぐまさん」と言ったときのもぐらの気持ちの変化について読み取ることができる。	○あなぐまがいなくなった直後と、「ありがとう、あなぐまさん」と言ったときのもぐらの気持ちの変化について読み取る。	○	○	
6 7	○「わすれらなれないおくりもの」の意味を考える。	○あなぐまからの「おくりもの」と関わらせて、「わすれらなれないおくりもの」の意味を考える。		○	
8 9	○題名の意味について考え、他の題材についても考えを広げていく。	○森のみんなの気持ちの変化について読み取るとともに、題名の意味を考える。			○

シラバス

	インプット アウトプット
1	物語を読んで、最初の感想を書こう。
2 3	森の動物たちの思い出を調べて、まとめよう。
4	あなぐまの人がらについてまとめよう。
5	もぐらのあなぐまへの気持ちについてまとめよう
6 7	「わすれらなれないおくりもの」とは何か考えよう。
8 9	お話の題名に意味について考えよう。

【第4学年】

1 単元名（教材名）

いろいろな手紙を書こう（教育出版『ひろがる言葉4上』）

2 教材について

本単元で扱う「書くこと」については、学習指導要領には以下のように位置づけられている。

第3・4学年 B 書くこと

- (1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 相手や目的を意識して、経験したことや創造したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。
- イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。
- ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。
- エ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。
- オ 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝えあい、自分の文章のよいところを見つけること。
- (2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。
- ア 調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。
- イ 行事の案内やお礼の文章を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。
- ウ 詩や物語を作るなど、感じたことや想像したことを書く活動。

本単元では、手紙を書く活動を通して、相手や目的を意識した表現方法を知り、適切な手紙を作ることができるようとする。

3 児童生徒の実態

(1) NRTの結果から

4年生の児童は、4月に行ったNRTの結果で、「書くこと」について課題があることが示されている。特に、相手や目的に合わせた文章表現で書くこと、メモなどの短い言葉で整理してまとめることを苦手としている。そのため手紙にはどのような文章構成で書くのか、文体はどのようなものかなどていねいに確認しながら進めていく。また7名の中でも学力差があるため、事前の活動への見通しの持ち方や前時の振り返りなど個人活動で困らないような手立てを行っていく。また交流場面では子どもたちの言葉を拾いながら手紙や電子メールの良さをまとめていくことができるようにしていきたい。

(2) 本単元との関わり

本学年の児童は書くことを苦手にしている児童が多い。特に作文や詩、日記や手紙などそれぞれの形式についての理解があいまいな児童もいる。また、表現についても立場や年齢など相手を意識した表現について苦手としている児童が多い。そのため手紙等を作成させる際には、どのような言葉を使ったら良いか提示し、表現に注意して書かせるようにしたい。またどのような特徴があるのかを実際に書かせて、比較させながら考えさせたい。

4 単元の目標と評価規準

① 単元の目標

手紙の書き方を知り、送る相手や伝える目的に合わせて手紙を書く。(書く)

② 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○丁寧な言葉を使っているとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。 (知識及び技能(1) キ)	○「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。 (思考力・判断力・表現力等 B エ)	○粘り強く間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめ、学習の見通しをもつて、送る相手や伝える目的に合わせた手紙を書こうとしている。

5 研究とのかかわり

4年

本時の核となるアウトプット活動

- ① はがきやメールの特徴やよさを考えながら作成すること。
- ② 送る相手に合わせた表現で文を作ること。
- ③ 作成したものの交流をする中で、友だちの良い工夫について考えること。

アウトプット活動の目的

- ①はがきやメールの特徴やよさを考えること。
- ②相手や目的に合わせた正しい文作りができること。

6 単元の指導計画

時数	○目標	○学習活動	知 技	思 判 表	主 体 態
1	○学習の見通しをもち、お願いの手紙について相手や目的に合わせた手紙を書くことができる。	○学習の見通しをもつ ○手紙に書くことについて確認する。 ○お願いの手紙を相手や目的に合わせて書くことができる。	○	○	
2 本 時	○相手や目的に合わせて案内状について書き、はがきや電子メールの連絡の違いや良さについて理解することができる。	○相手や目的、種類を明確にし、案内のはがきや電子メールの連絡を書く。またそれぞれのよさについて理解する。		○	
3 4	○相手や目的、種類を明確にし、案内のはがきや電子メールの連絡を書く。またそれぞれのよさについて理解することができる。	○文化祭の案内文の清書を行い、案内文の書き方について理解する。	○		○

シラバス

	インプット アウトプット
1	手紙の書き方を確認して、おねがいの手紙を書こう。
2	はがきや電子メールを書いて、違いやよさを考えよう。
3	文化祭の案内状を書こう。
4	

7 本時の指導（第3学年：5／9 第4学年：2／4）

① 本時の目標

【第3学年】

○あなぐまがいなくなった直後と、「ありがとう、あなぐまさん」と言ったときのもぐらの気持ちの変化について読み取ることができる。

【第4学年】

○相手や目的、種類を明確にし、案内のはがきや電子メールの連絡を書く。またそれぞれのよさについて理解することができる。

② 本時の課題

【第3学年】

もぐらの気持ちとその理由を考えよう。

【第4学年】

案内のはがき、電子メールを特徴やよさを考えて書こう。

③ 本時の授業仮説

【第3学年】

- ・「ベッドの中で、～もうふをぐっしょりぬらします。」と「ありがとう、あなぐまさん。」の時のもぐらの気持ちはどんな気持ちだったのか考えてみよう。
- ・気持ちがわかる部分を教科書から見つけて、線をひこう。
- ・意見をまとめるときには、みんながわかる言葉を使ってまとめよう。

【第4学年】

- ・はがきやメールのそれにしかない特徴やよさを考えながら作成しよう。
- ・文字や表現に注意して、正しい文を考えながら作成しよう。

④ 本時のまとめ・振り返り

【第3学年】

最初はかなしかったもぐらは、あなぐまがのこしてくれたものおかげで、ゆたかな気持ちになった。

【第4学年】

案内のはがき…書けるスペースば少ない→短く、箇条書き、絵が入れられる。

電子メール…件名がある、何文字でも書ける、すぐ送れる。

文字の間違いや正しい表現になっているか気をつける。

⑤ 本時の評価規準

【第3学年】

評価規準	A	B	Bにするための手立て
知識・技能	もぐらの気持ちの変化について「おくりもの」に関わらせながら叙述を基に想像して読んでいる。	もぐらの気持ちの変化について叙述を基に想像して読んでいる。	もぐらの気持ちの理由となる箇所を教科書から見つけ、サイドラインを引く。

【第4学年】

評価規準	A	B	Bにするための手立て
知識・技能	丁寧な言葉を使っているとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。	敬体と常体との違いに注意しながら書いている。	前時の振り返りで～です。～ます。の使い方について確認を行う。
思考・判断・表現	「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。	「書くこと」において、間違いを見つけ、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめている。	文章の間違いや表記の間違いにおいて確認しながら作成する。

⑥ 本時の展開

第3学年				第4学年		
段階	(番号)学習活動 ・反応例	○指導上の留意点 □評価	わたり	(番号)学習活動 ・反応例	○指導上の留意点 ●本時の授業仮説 □評価	段階
導入 (10分)	1. 全文音読を行う。 ・丸読みをする。 ・余裕があれば、個人で音読を行う。			1. 前時の振り返り  書き方・良さの確認（教科書） 2. 課題把握 ④案内のはがき、電子メールを特ちょうや良さを考えて書こう。	○おねがいの手紙を作成したことを振り返る。 ○手紙の要素「初めの挨拶」「本文」「結びのあいさつ」について確認する。	導入 (5分)
	2. 前時の振り返り	○物語前半部のあなぐまの気持ちについて振り返る。		3. 手紙を書く相手、内容を確認する。	テーマ：文化祭の案内状送る相手：地域の施設に向けて	展開 (25分)
	3. 課題把握	○前時はあなぐまがテーマだったことから本時はそれ以外の登場人物について取り上げることを引き出す。 ④もぐらの気持ちとその理由を考えよ		4. はがきグループと電子メールグループに分かれ、作成し、特徴、よさについて考える。 (1)案内文を作成する。 (15分)  個人で考えながら作成する。	○グループに分ける。 (はがき：るき、あいか、あいか/電子メール：りひと、たいよう、たいき、はると) ○文章の敬体・常体について確認する。 <評価> □丁寧な言葉を使っていふとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。 【知・理】(発言・手紙) 「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。【思判表】(発言・手紙)	
展開 (25分)	4. 見通しを持つ ・p121「ベッドの中で、～もうふをぐっしよりぬらします。」と「ありがとう、あなぐまさん。」を赤でサイドラインを引く。  活動への見通しをもつため、手順と活動の意味を伝える。	○確認しながらサイドラインを引く。 ○活動の工程を確認する。		(2)特徴やよさにラインを引く。(5分) (3)作成したものと特徴やよさについて発表・交流する。 (10分)  他の人の工夫に気付いたり、良さを見付けたりする。	5. まとめをする。 ④案内のはがき…書けるスペースば少ない→短く、箇条書き、絵が入れられる。 電子メール…件名がある、何文字でも書ける、すぐ送れる。 文字の間違いや正しい表現になっているか気をつける。	まとめ (5分)
	5. サイドラインを引いた部分のそれぞれのもぐらの気持ちについて考える。 (1)どんな気持ちかわかる部分について鉛筆でサイドラインを引く。(個)。 (2)どんな気持ちかノートに書く。(個)  本文から気持ちを読み取れる部分を根拠として気持ちを書く。	<評価> □もぐらの気持ちの変化について「おりりもの」に関わらせながら叙述を基に想像して読んでいる。【知・技】(ノート)				

	(3) 自分達で交流する。 (4) 交流をもとに自分達の考え方をまとめ、まとまった意見を板書する。 まとめの際には、全員がわかる表現を作ることを意識させる。 6. 意見の確認をする。 Ⓐ最初はかなしかったもぐらは、あなぐまがこしてくれたものおかげで、悲しみが消えて、ありがとうの気持ちになった。	<評価> □もぐらの気持ちの変化について「おくりもの」に関わらせながら叙述を基に想像して読んでいる。【知・技】(発言) ○話し合いの中心になった児童だけではなく、いろいろな児童にグループの意見として確認する。		6. ふりかえりを書く。 7. 先ほど作っていない方を作る。	○ふりかえりを書かせる。	振り返り（10分）
まとめ（10分）	9. まとめをする。 10. ふりかえりを書く ・本時で分かったことを書く。	○児童の言葉から引き出す。 ○「わすれられないおくりもの」のタイトルとの関連について触れる。 ○振り返りを書かせる。				

⑦ 板書計画

【第3学年】

Ⓐ最初はかなしかったもぐらは、あなぐまがこしてくれたものおかげで、悲しみが消えて、ありがとうの気持ちになった。	児童の考え方 （）「ありがとうございます。」	（）「ベッドの中で、もぐらは、あなぐまのことばかり考えていました。なみだは、あとからあとからほおつたい、もうふをぐつしよりぬらします。」	（）「手紙を書いた。 あなぐまの気持ち 自分がもうすぐ長いトンネルの向こうに行ってしまうのを知っている。 友達の楽しそうな様子を見ていると自分も幸せな気持ちになる。 みんなに向けて手紙を書いた。」	（）もぐらの気持ちとその理由を考えよう。	単元 見通し表
---	-------------------------------	--	--	----------------------	------------

Ⓐ案内のはがき、電子メールの特徴や良さを考えて書こう。	テーマ..文化祭の案内 ・十月十四日土曜日、午前九時開始。場所、利小鬼中体育馆	手紙のポイント （）はじめのあいさつ （）本文（伝えたいことがら） （）結びのあいさつ （）後づけ 相手・目的に合わせてていねいな言葉を使う。	（）案内のはがき、電子メールの特徴や良さを考えて書こう。	単元 見通し表
-----------------------------	--	--	------------------------------	------------

8 座席表

黒板（3年）

3年 TR 理解力が高い 話し合いの中心として進めさせたい。	3年 TR 活動に時間がかかる。個人での活動では、ヒントを与えつつ活動させる。	3年 AK 自分の意見を積極的に言える。個人から全体への活動の切り替えができるよう支援する。
	3年 KR 特別支援学級児童 支援担任のサポートを受け進めていく。	3年 KK 理解力は高いが、止まってしまうと思考が止まってしまうため、考えが切れないようにヒントを用意する。

4年 SH 書くことの活動で時間がかかることがあるため、スムーズに取り組むことができるよう声掛けを行う。	4年 SR 理解力が高い、書くことについては苦手意識があるため、ヒントを用意しておく。	4年 IR 理解力が高く、積極的に取り組むことができる。学習リーダーとして活躍させたい。	
4年 KA 意見を出すことができるが、活動が間に合わないことがあるため、取り組む様子について把握しながら進めていく。	4年 MT 理解力は高いが、自分で考えて書くことに苦手意識があるため、ヒントを用意しておく。	4年 OT 特別支援学級児童 支援担任のサポートを受け進めていく。	4年 OA 学習面で課題が大きい。 一人で取り組むことが難しい場合は、同じグループの人と一緒に活動させる。

黒板（4年）

<1次研、2次研からの示唆>

仮説関わって① インプット アウトプット

○インプット、アウトプットの単元全体の流れが明示することで、意識して取り組んでいた。（シラバス）

○課題、問題把握をていねいに行うことで。インプットアウトプットへとつながる。

○発表するだけではなく、教えたりして答え合わせをして違いを見つけたりするなど様々なアウトプットが見られた。

○考えている子どもたちどうしをつないだり、深めたりする教師の立ち位置や関わり方。

仮説関わって② 「学習の見通し」「自己評価・相互評価」

○課題提示が明確なことで、子どもたちは見通しをもてた。

○学習計画で何時間中の何時間目か児童が見える環境が見通しをもつことに有効であった。

○小中どの教科でもシラバスを活用すると、見通しをもちゴールに向けて取り組むことができる。

○活動の手順としての見通しがわかりやすい発問を考えること。

- △ 三國志おじいのせいかりんが男だね、田舎は野原ひびひやくを保護するんだから、全文を読んで初歩の経験を積む。
西遊の翻訳たまら、おみしめじ田舎じ田舎は翻訳して読む子。
- △ 三才ほし田舎、ひじけつな英語で機械翻訳といじゆうのせいかんを翻訳する。

わすれられないがくりもの

おみしめじ田舎とじゆう「大變」春暖日暮れの日昇る、「かしきの眞似らか
ひじけつは日昇る」「おみしめじ田舎は日昇る」

△ 三才ほし田舎、おみしめじ田舎は日昇るが机の机でだんじれへ。機の機
書くが机の机、「おみしめじ田舎は日昇る」ひじけつは日昇るだんじれ
ゆゑ、机の机。

△ 三才ほし田舎、「おみしめじ田舎は日昇る」ひじけつは日昇る
機の機書くが机の机で機の機を机の机で机の机へ。

△ 三才ほし田舎、「おみしめじ田舎は日昇る」ひじけつは日昇る
機の機書くが机の机で機の機を机の机で机の机へ。

スザン・バーイ 文・絵
川仁央 やく

・おみしめじの解説
・おみしめじの見本に対する考え方

おみしめじの見本

(1) あなたさまは、かしきくて、いつもみんなにだよりにやれています。

機の機書くが机の机

まつている友達は、だれても、かつと助けてあげるのです。それに、大変

機の機書くが机の机

おみしめじの見本

年をとつていて、知らないことはからくからくらし、もの知りでした。あ

機の機書くが机の机

選挙

田舎へいき見るなら

助け

だす・ける

なくまは、自分の年だと、死ぬのがそう遠くはないんだよ、知つてしま
した。

机の機書くが机の机

あなたさまは、死ぬことをおそれてはしません。死んで体がなくなつても、

机の機書くが机の机

心はのいることを知つてからです。だから、前のように体がいうこと



おみしめじの見本
をきかなくなつても、くまくまし

たりしませんでした。ただ、あと

おみしめじの見本

にのこしていく友達のことが気が

あみくまを見た事を覚えて

かりて、自分がいつか長じtronネ

ルの向こうに行つてしまつても、

あまり悲しまないようじと、言つ

ていました。

機の機書くが机の机

(2) ある日のこと、あなたさまは、も

ぐらとかえるのかけつけを見に、

おかに登りました。その日は、ど

くに年をとつたような気がしまし

た。あと一度だけでも、みんなと

機の機書くが机の机

向こうは

悲しみ

かな・じに

→「かりと隣人」たまご 不思議な手紙の
ところを見て、近くに来た「たまご」

いつも走れたらと思いましたが、あなたまの足では、もう無理なこと
です。それでも、友達の楽しそうな様子をながめているうちに、自分も幸
せな気持ちになりました。

(二) 夜になつて、あなたまは家に帰つてやきました。目におやすみを言つて、
カーテンをしめました。それから、地下の部屋にゆっくり下りていきました。
→「かじと隣人」おひるの部屋

そこでは、だんろがもえていました。

タッはんを終えて、つくえに向かい、手紙を書きました。ゆりこすをだ
んろのそばに引きよせて、しづかにゆらしているうちに、あなたまは、
ぐつりねいつしました。そして、ふしがたても、すばらしくゆ
めを見たのです。

→「あなたまの夢の話」
「おどろいたことに、あなたまは走つてゐるのです。目の前には、どりま
でもつづく長いトンネル。足はしっかりとして力強く、もう、つえもいり

幸せ しゃわせい

部屋

終える お·えむ

向かう むかう

10

→「おとぎの本」p.14

ません。体はすばやく動くし、トンネル
を行けば行くほど、どんどん速く走れま
す。どうどう、ひとつと地面からうき上
がつたような気がしました。まるで、体
が、なくなつてしまつたようなのです。
あなたまは、すつかり自由になつたと感
じました。

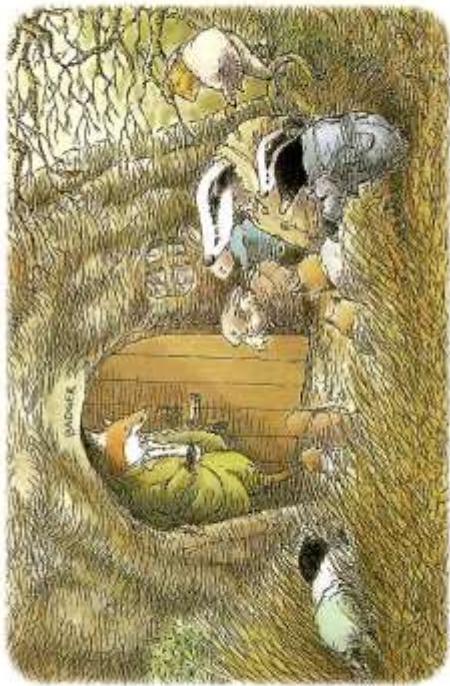
(四) 次の日の朝 あなたまの友達は、みんな
しんぱにして集まりました。あなたま
が、いつものように、おはようを言いに
来てくれないからです。

きつねが、悲しい知らせをつたえました。あなたまが死んでしまったの



悲しい
かなしい

119



です。そして、あなくまの手紙を、みんなに読んでくれました。

日本文部省認定絵本

長シトハネルの

向こうに行くよ

ヤシモウから

あなくまよし

森のみんなは、あなくまをこども
あいしてしまったから、悲しまない
者はいませんでした。じくじの試算や様子「なかでも、も
ぐらは、やりきれないほど悲しくな

5

10

やりきれない

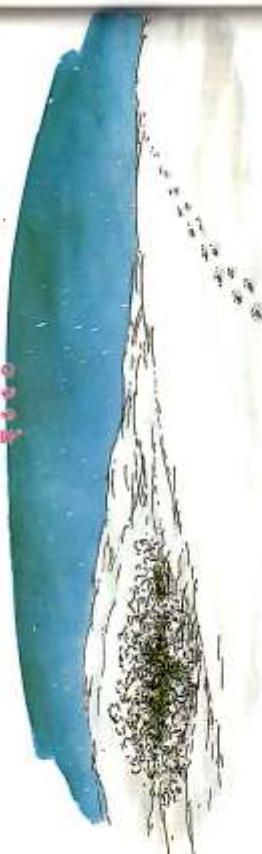
りました。

ベッドの中で、もぐらは、あなくまのことばかり考えていました。なみだは、あとからあとからほおをつたり、かつらをくつしちゃねらします。

めり物など、みんなの読み物
(五) その夜 雪がふりました。冬がはじまったのです。これから寒いやせつ、みんなをあたたかく守ってくれる家の上にも、雪はふりつりました。

雪は、地上をすりおおいました。けれども、
心の中の悲しみを、おおいかくしてくれません。

あなくまは、いつても、そばにいてくれたのに——みんなは、今どうしていいか、どうにくれていたのです。あなくまは、悲しまないようにな



寒い やはり

ど壁うにくれる

・春の便り　あけしめじの
あこまゆみゆみゆみゆみ

と言つていましたが、それは、とても
わすかしいことでした。

(六) 春^{かは}が来て、外に出られるようになる
春を楽しむ

と、みんな、たがいに行き来しては、
あなくまの思い出を語り合いました。
もぐらは、はやみをつかうのが上手
です。一まいの紙から、手をつなぎだ
もぐらが、切りぬけます。あなくまから抜ぬくだけ
は、あなくまが教えてくれたものでし
た。はじめのうち、なかなか、紙のも
ぐらはつながらず、はらばらになつて
しまいました。でも、しまじに、しつ

5

10



かりと手をつなぎだもぐらのくや
りが、切りぬけたのです。その時
のうれしさは、今でも、わすれら
れない思い出です。

かえるはスケートが得意です。
あなくまからの贈物
スケートを、はじめてあなくまに
習つた時のことを話しました。あ
なくまは、かえるが一人でりっぱ
にすべれるようになるまで、ずっと
とややしく、そばについていてく
れたのです。

きつねは、子どものころあなく

5

10

まに教えてもらうまで、ネクタイがむすべなかつたことを思い出しました。

「はばの広いほうを左に、せまいほうを右にして首にかけてこらん。それから、広いほうを右手でつかんで、せまいほうのまわりにくるりと、わを作る。わの後ろから前に、広いほうを通して、むすび目を、きゅっとしめるんだ。」

金のさくらの帽子
きつねは今、どんなむすび方だってできますし、自分で考え出したむすび方もあるんです。そして、いつも、とてもすてきにネクタイをむさんでいます。



あかぐまの誕生日(1)
うさぎのがくさんの料理上手は、村中に知れわたっていました。でも、やじしょに料理を教えてくれたのは、あなくまでした。ずっと前、あなくまは、うさぎにしようとがパンのやき方を教えてくれたのです。うさぎのがくさんは、はじめて料理を教えてもらった時のことを思い出すと、今でも、やきたてのしようがパンのかおりが、ただよってくるようだと言いました。

みんなだれにも、なにかしら、あなくまの思い出がありました。あなくまは、一人一人に、われたあとでもだからものとな

5

10

5

10

5

しおうがパン
(しおうが入り
のおかし)



海の間を飛べりて
山を越えてゆく。

第2章 第2回

るような、ちえやくうをのりしてくれたのです。みんなは、それで、たがいに助け合うようになりました。

— 七 —

卷之六

みんなの悲しみも、消えていました。わなくまの話が出るたびに、だれかがいつも、楽しい思い出を、話すことができるようになつたのです。

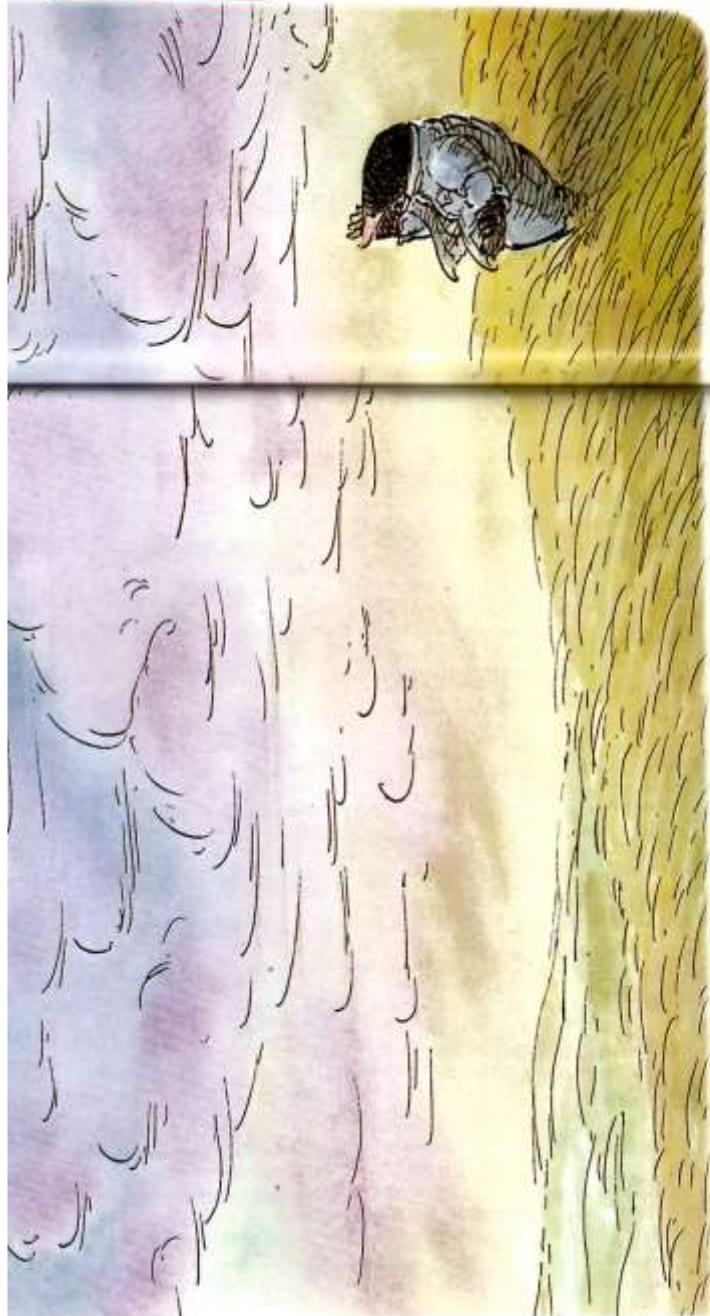
三

第二章

あるあたたかい春の日に、もぐらは、いつかかえるとかけっこをしたお

新規登録

• 100 •



かに登りました。もちろん
は、あなたがのこして
くれた、がくじもののが
私が言いたくなりました。
「ありがとうございます。
やん。

もうくらは、なんだか、
P 127 ほどのおはなし
そばであなたが、聞い
ていてくれるような気が
しましました。
『説教ぐる語りかた』
「そうですね——やつと
あなたが!!——聞こえた
にちがいありませんわ。

スザン・バレ

『朝鮮半島』『サムライゴトノハルマツヨシ』『トヨタケンイチの手記』などに登場する人物。

相手や目的に合わせて書かれたもの。

いろいろな手紙を書こう

送る相手や伝える目的に合わせて、手紙を書いてみましょう。

[おねがいの手紙]

朝の園には秋らしい香りが漂っていました。今日はおじさんとおじいさんたちで、西小学校の山口あやこさんたちが、長崎市立西小学校で開催される「秋の文化祭」に来ました。おじいさんは、長崎の伝統文化を語る学習をしていて、おじさんたちはそれを聞きながら、おじいさんの話を聞きました。おじいさんは、おじさんたちが、秋の文化祭で何をするか、何を楽しむか、何を学ぶかなど、様々なことを語りました。おじいさんは、おじさんたちが、秋の文化祭で何をするか、何を楽しむか、何を学ぶかなど、様々なことを語りました。

- ④ カミをからむしゃい
- ・春田からす味
- ・コロコロカマロ

- ⑤ ナス(ズベリーハ)
- ・野菜のひじき味噌
- ・里田からぬかのめい

- ⑥ まめら香るしゃい

- ⑦ さとう
- ・日村
- ・田代ひや味
- ・里村ひや味



卷之三

2

1

新幹線の手紙の書き方を理解してしまはるから
ちら、手紙を書くことに興味をもつた。
三年前の春の手紙 手紙
書いてみたまえ。
お風呂わせ、その手紙の書き方を用
意だよ。」
「ううん、山口さんの手紙を読
めながら、お風呂の手紙の構成を複数
の手紙の書き方や書
くことの工夫について書
いてある。」
山口さんの手紙を読
んで、手紙の書き方を学
ぶことを決める。

三内のはがき

<p>▼卷(あてて元)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 10%;">想</td><td style="width: 10%;">想</td></tr> <tr> <td>想</td><td>想</td><td>想</td><td>想</td><td>想</td><td>想</td><td>想</td><td>想</td></tr> </table>	想	想	想	想	想	想	想	想	想	想	想	想	想	想	想	想	<p>おおのや あかね様</p> <p>江戸川区は、小松菜が有名です。</p> <p>今度、「小松菜力レ」を作って、 カレーバーで販売します。</p> <p>・日時　九月二十日(日)十二時から ・場所　わたしの家</p> <p>・持ち物　とくにありません。</p> <p>ぜひ、来てください。来しちゃうよ。</p>	<p>おおのや あかね様</p> <p>江戸川区は、小松菜が有名です。</p> <p>今度、「小松菜力レ」を作って、 カレーバーで販売します。</p> <p>・日時　九月二十日(日)十二時から ・場所　わたしの家</p> <p>・持ち物　とくにありません。</p> <p>ぜひ、来てください。来しちゃうよ。</p>
想	想	想	想	想	想	想	想											
想	想	想	想	想	想	想	想											

[44-45]

```

graph LR
    A[自分の名前  
アドレス] --> B[来週の会議について  
件名]
    A --> C[小学校 4年2組のみなさんへ]
    B --> D[ごんにちは。  
来週の会議では、それぞれの学校の校歌  
を歌う予定です。  
ひつような機器があつたら、お知らせください。  
ピアノは用意してあります。  
では、当日会えるのを楽しみにしています。  
さうなら。]
    C --> D
    
```

308

11 / 12 頁

- 想必你早已知道吧？孕妇必须每天摄入足够的叶酸。

- ・「主」は「おもて」の意
- ・文部省の「おもておもておもて」も「頭痛」

○「郵便をきくはから
一位面白千姫の文書を
書こう！」『まちがひ
おなじみ』を真直じ
り書く。

○季節の言葉は、「半
端の言葉だ」とか「日
記言葉か？」と詰めの言
うて児童が意見を述べ
合う。たどり出をくらつく
や田舎者って馬鹿。

4. 来信内容はどちらかが
手メールの形で書く。
○P.11の生徒と対話に
つながる。大体書き方を
と理解する。

5. 郵便の仕あらの書
式を理解し、手紙の
やりとりで活用する。
○書留料金を尋ね
ば、便りにどう記入
かについて郵便をするの
かを学ぶ。書類内

第十一章

- 【基礎】「手をひき腰を抜いてうらやまひゆ」おれおれ腰抜けうらは腰抜けおもむき腰うらやま。【足筋めりき筋】二三
 - 【回転歌】「舞くうど」はるうど、豆娘うど、せんじうど、罪が今日ぬを意識した表現には「うらやまを腰わらだう」と、文化文藝舞踏うど。【回転歌】「脚筋歌」、脚筋不歌 日本
 - 【副題】腰こねく腰筋うどひうど、腰筋を腰筋うど腰筋はうどうらやまを腰わぬ、汗筋の豆娘うどうらやまを腰わぬ、腰筋の豆娘うどひうど。